

KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭特別展示

「チームラボ 小さき無限に咲く花の、かそけき今を思うなりけり」

ウルトラテクノロジスト集団、チームラボによる新作含めた8作品
2016年9月17日（土）～11月20日（日）茨城県天心記念五浦美術館にて
<http://kenpoku-art.jp>



茨城県北芸術祭実行委員会(会長:橋本 昌(茨城県知事))は、2016年9月17日(土)から11月20日(日)までの65日間、茨城県北地域6市町(日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町)を舞台にした初めての国際芸術祭「KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭」を開催いたします。その特別展示として、現代を代表するウルトラテクノロジスト集団、チームラボが、岡倉天心ゆかりの地、五浦にある茨城県天心記念五浦美術館にて「チームラボ 小さき無限に咲く花の、かそけき今を思うなりけり」を開催し、日本画の芸術精神をモチーフにした和風のデジタル作品群を展示します。

本展示会は、明治時代に活躍した美術行政家、岡倉天心の、伝統に基づきながら日本美術の改革につとめたその精神にちなみ、チームラボによる日本の[和]をテーマにしたデジタルアート8作品を展示するものです。(うち2作品は新作)

本展のために制作された新作「小さきものの中にある無限の宇宙に咲く花々」は、天心がその美を追究した茶の湯をテーマにした観客参加型の作品です。

【開催概要】

タイトル：

KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭特別展示「チームラボ 小さき無限に咲く花の、かそけき今を思うなりけり」

会期：2016年9月17日（土）～11月20日（日）

会場：茨城県天心記念五浦美術館/ 〒319-1703 茨城県北茨城市大津町椿2083 URL: <http://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>

開館時間：9:00～17:00（予定）※入館は閉館30分前まで ※9月17日のみ12:30-17:00

休館日：会期中無休

入場料：茨城県北芸術祭の個別鑑賞券（¥1,000）をお求めいただくか、作品鑑賞パスポートをご提示ください。

主催：茨城県北芸術祭実行委員会

【報道関係者向けお問い合わせ先】

茨城県北芸術祭実行委員会東京事務局（エヌ・アンド・エー 株式会社内）

TEL：03-5545-3627 FAX：03-5545-3628 Email：press@kenpoku-art.jp

【各種お問い合わせ先】

茨城県北芸術祭実行委員会事務局

〒310-8555 茨城県水戸市笠原町 978番6 TEL 029-301-2727（直通） FAX：029-301-2738 E-mail：info@kenpoku-art.jp

新作 2作品

空書 円相、無限相/Spatial Calligraphy: Circle, Infinity

teamLab, 2016, Sculpture in VR(Virtual Reality), Sound: Hideaki Takahashi



作品URL：https://www.team-lab.net/jp/works/spatial_calligraphy_circle_infinity/

映像リンク：<https://youtu.be/R1AzcF8Rgmc>

空書とは、チームラボが設立以来取り組んでいる、空間に書く書のこと。書の墨跡が持つ、深さや速さ、力の強さのようなものを、新たな解釈で空間に立体的に再構築している。コンピューター上に創った空間の空中に、禅における書画のひとつ「円相」をモチーフにした「円」や「無限」の文字が永遠と書かれ続けている。複数の鑑賞者は、VRヘッドセットをつけることによって、同時にその作品世界に入り込み、コントローラーによって空間に書を書くことができる。書かれた書は、回転しながら浮遊し、やがて、空中の「円」や「無限」の文字と重なって、浮遊した一つの大きな彫刻となる。空中に書かれる書はコンピュータプログラムによってリアルタイムで描かれ続けている。あらかじめ記録された映像を再生しているわけではない。全体として、以前の状態が複製されることなく、新たな書を書き続ける。鑑賞者が書く書も加わり、今この瞬間の立体物は、二度と見るできない。

*本作品で使用する「VRヘッドセット」は、身体的リスク(斜視)のため、13歳以上のご利用を推奨しております。

小さきものの中にある無限の宇宙に咲く花々/Flowers Bloom in an Infinite Universe inside a Teacup

teamLab, 2016, Interactive Digital Installation, Endless, Sound: Hideaki Takahashi



作品URL：<https://www.team-lab.net/jp/works/flowersbloom/>

映像リンク：<https://youtu.be/FOIzxPoOcX8>

チームラボが本展のために制作した新作は、岡倉天心が約100年前に著書「茶の本」で世界中に発信した、茶の美学についてのインタラクティブ作品です。鑑賞者は、茶を入れた茶碗の中に花が咲き、やがて散っていく様子を体験することができます。花は、茶碗が置かれていたり静止したりしていると、より生まれていきますが、茶碗を持ち上げたり動かしたりするといっせいに散ってしまいます。作品はコンピュータプログラムによってリアルタイムで描かれ続けており、今この瞬間の絵は二度と見るできません。かつて、西洋化の荒波の中で消え行こうとし、天心がすくいあげた「儂さ」の価値を、現代的なアプローチで提示しています。

展示作品より

Nirvana

teamLab, 2013, Digital Work, 6min 20sec (loop), 8 channels



作品URL：<https://www.team-lab.net/jp/works/nirvana/>

映像リンク：<https://youtu.be/f2UrYbK8ohg>

近世日本の絵師である伊藤若冲(1716 - 1800)の『鳥獣花木図屏風』や『樹花鳥獣図屏風』は、升目を基本として描かれており、どこかコンピュータの機能的制約から生まれたピクセルアートに通ずるところがあります。この若冲の名作をモチーフにしたのが本作です。入寂する仏陀のまなざしに捉えられた、自身を見守る動植物達の、命の輝きに満ちた世界観が表されています。

まほろば / The Land of Peace and Bliss

teamLab, 2014, Digital Work, 10min 30sec, Sound:AO Shigetake, Supervising Director : Seigo Matsuoka



作品URL：<https://www.team-lab.net/jp/works/mahoroba/>

映像リンク：<https://youtu.be/3GAMK3yZ4ww>

新しい都がつけられていく情景を、様々な人々の物語が同時に平行して進んでいく様子を描くことで表現した絵巻物語です。白い象がゆっくりとこちらへ向かってくる様子は、インドを発祥の地とした文化の伝統と、その上に築かれてきた東洋の長い歴史を私たちに思い起こさせます。光の線は、截金（金箔や銀箔を細長く切って貼り付ける美術技法）をモチーフにしています。

世界はこんなにもやさしく、うつくしい / What a Loving, and Beautiful World

Sisyu + teamLab, 2011, Interactive Digital Installation, Endless, Calligraphy: Sisyu, Sound: Hideaki Takahashi



作品URL：<https://www.team-lab.net/jp/works/whatloving/>

映像リンク：<https://youtu.be/xFPStMgxgTQ>

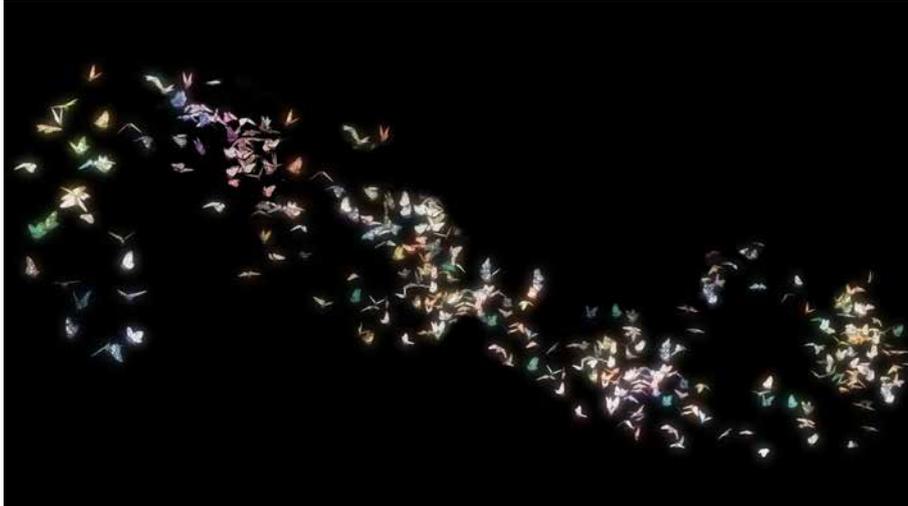
鑑賞者の影が文字に触れると、その文字がもつ世界が表れ、世界を創っていく。そして文字から生まれたものたちは、世界の中で互いに影響し合う。投影された世界の裏側には、360度広がる空間があり、文字から生まれたものたちは、空間上のそれぞれの位置や、それぞれが持つ知能や関係性、物理的な影響などによって、互いに影響を受け合いながら、空間上でリアルタイムに計算され、複雑かつ自然な世界をつかっていく。風が吹けば、風の物理的な影響を受け、蝶は火が嫌いだけれども、花が好きで、花に近づいていく。自然の景色に同じ瞬間がないように、同じ瞬間は二度となく、常に初めて見る景色を創り出す。

漢字が亀の甲羅や牛や鹿の骨、青銅器に刻まれていたころ、漢字の一文字は、ひとつの世界の部分を持っていた。漢字を通して鑑賞者どうしが呼び出した世界は、連続し、互いに相互作用を与えながら、世界は創られていく。

展示作品より

境界のない群蝶 / Flutter of Butterflies Beyond Borders

teamLab, 2015, Interactive Digital Installation, Endless



作品URL : <https://www.team-lab.net/jp/works/butterflies/>

映像リンク : <https://youtu.be/8Vw3Nwu1tDI>

群蝶は、羽の模様を変容させながら空間の中を舞い、同じ空間に展示された他の作品の中にも入っていきます。作品の境界線を乗り越えて飛ぶことによって、私たちの美術品に対する固定概念にあらがひ、美術作品と空間の間にある差異を曖昧にしていきます。群蝶は、花が咲いている場所に集まるなど、他の作品の状態に影響を受けて飛び、また、鑑賞者が触れると死んでいくなど、鑑賞者の振舞いにも影響を受けます。

増殖する生命 II - A Whole Year per Hour, Dark / Ever Blossoming Life II - A Whole Year per Hour, Dark

teamLab, 2015, Digital Work, Endless, 4 channels



作品URL : <https://www.team-lab.net/jp/works/everblossominglife2/>

映像リンク : <https://youtu.be/-mKQoj0feK4>

一時間を通して、一年間の花々が咲いては散り、瑞々しい生命の息吹を表現する映像作品です。この作品もやはり、記録された映像の再生ではなく、コンピュータプログラムによってリアルタイムで描き続けられているもので、その瞬間の光景はその時にしか見ることができません。

展示作品より

生命は生命の力で生きている / Life Survives by the Power of Life

teamLab, 2011, Digital Work, 6min 23sec (loop), Calligraphy: Sisyu



作品URL : <https://www.team-lab.net/jp/works/life/>

自然の恵みも脅威も、そして文明の恵みも脅威も、連続的でつながっている。どこかに絶対的な悪意があるわけでもなければ、かといって綺麗ごとでもすまされない。わかりやすい解などないし、感情すら整理できないかもしれない。それでも、あらゆる状況においても“生きる”それを全部肯定したい。生命はうつくしい。チームラボが長年、取りくんできた、空間に描く書『空書』。書の墨跡が持つ、深さや速さ、力の強さのようなものを、新たな解釈で空間に立体的に再構築している。



【チームラボについて】

プログラマー、エンジニア、CGアニメーター、絵師、数学者、建築家、ウェブデザイナー、グラフィックデザイナー、編集者など、デジタル社会の様々な分野のスペシャリストから構成されているウルトラテクノロジスト集団。アート・サイエンス・テクノロジー・クリエイティビティの境界を曖昧にしながら活動している。

<https://www.team-lab.net/jp/>

KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭について



茨城県北芸術祭実行委員会(会長:橋本 昌(茨城県知事))は、2016年9月17日(土)から11月20日(日)までの65日間、茨城県北地域6市町(日立市、高萩市、常陸太田市、北茨城市、常陸大宮市、大子町)の海と山を舞台に、国際芸術祭「KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭」を開催いたします。

風光明媚な海と山が織り成す豊かな自然に恵まれた茨城県北地域を舞台に、自然と調和するアート、科学技術を用いたメディアアート、さらに次世代の変革を担う生物学を援用したアートなど、最先端の芸術作品も登場します。総合ディレクターに森美術館館長の南條史生氏を迎え、日本最大級の規模で展開する芸術祭です。

開催概要

名称	KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭
テーマ	海か、山か、芸術か?
会期	2016年9月17日(土)～11月20日(日)[65日間]
開催市町	茨城県北地域6市町 日立市、高萩市、北茨城市、常陸太田市、常陸大宮市、大子町
主催	茨城県北芸術祭実行委員会 (会長 橋本 昌 茨城県知事)
作品数	約100 (プロジェクトを含む。17の国と地域より85組のアーティストが参加)
主な展示会場	1 五浦・高萩海浜エリア(茨城県天心記念五浦美術館周辺や高萩市の海浜部) 2 日立駅周辺エリア(JR常磐線日立駅周辺) 3 奥久慈清流エリア(常陸大宮市の久慈川流域やJR水郡線常陸大子駅前地区) 4 常陸太田鯨ヶ丘エリア(常陸太田市中心部)

ディレクターチーム	総合ディレクター：南條 史生 キュレーター：四方 幸子、金澤 韻 クリエイティブディレクター：谷川 じゅんじ コミュニケーションディレクター：林 千晶 オフィシャルデザイナー：岡本 健 ジェネラルマネージャー：桑原 康介
-----------	---

